

二十五回生 牧村（山崎）佳那子

映画見てひとりの銀座朧の夜

ががんぼの影濃し髪とほどきけり

レタス噛む計画性の無き女

心配包むやうに花種包みけり

猫抱いて茅の輪くぐれる女かな

女子会や山と盛られて蕪苳ちしやサラダ

釣忍は美しき日本語はなしたし

ががんぼちしや|| 蚊とんぼ  
蕪苳|| レタス

父母や夫と離れて自分の句を七句えらびました。  
風景句、吟行句は未だに苦手でいつものように身の  
まわりの句ばかりです。

釣忍（つりしのぶー吊りしのぶ とも書く）

釣忍とは、竹やシユロの皮などを芯としたもの  
にシダ科の植物しのぶを這わせたしのぶ玉を  
軒先などに吊るしたものを指します。  
風鈴などを吊して夏の風物詩です。

